



"To acknowledge the duty that accompanies every right"  
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

# THE OSAKA CENTENNIAL

C/O OSAKA YMCA  
 1-5-6 TOSABORI, NISHI-KU,  
 OSAKA, JAPAN

September 2002 No 3  
 Chartered July 20, 1982

## 標語 YS SLOGANS (2002~2003)

クラブ会長 : 『心と思いを合わせ、共に生きる』  
 国際会長 : " Growth through service " 『奉仕による成長』  
 アジア会長 : " Into the bright light of selflessness "  
 『無私な奉仕で輝く未来へ』  
 西日本区理事 : 『ベクトルを合わせ、地域と共に活動を』  
 中西部長 : 『心(こころ)豊かに! ワイズ・スピリッツを燃やそう!』

## クラブ役員 Officers

会長 : 松浦 孝次  
 副会長 : 中村 茂高  
 " : 谷川 俊一  
 書記 : 山田 孝彦  
 " : 畠中 彬  
 会計 : 三浦 直之  
 ネット会長 : 松浦 和子  
 Y連絡職員 : 浜野 昌保

## 月間強調テーマ : 『 Menette 』

☺☺☺ 9月の聖句 ☺☺☺  
 【 Biblical Message of the Month 】

イエスはたとえを用いて彼らに多くのことを語られた。「種を蒔く人が種蒔きに出て行った。蒔いている間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ち、そこは土が浅いのですぐ芽を出した。しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。ほかの種は茨の間に落ち、茨が伸びてそれをふさいでしまった。ところが、ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。耳のある者は聞きなさい。

(マタイによる福音書 13章3~9節)

☺☺☺ 9月の例会 ☺☺☺  
 【 September Club Meeting 】

### ○ 9月 第1例会

日時: 2002年9月18日(水) 18:30~20:30  
 場所: 東洋ホテル3階

司会 谷川 有実子ネット

1. 開会点鐘 松浦 和子ネット会長
2. ワイズソング 一同
3. 聖句朗読 福永 滋子ネット
4. ゲスト紹介 松浦 和子ネット会長
5. ワイズ国際大会報告 鈴木 謙介君
6. スピーチ 隅田 恵子ネット
7. アメラジアン子どもキャンプを振り返って  
 中村茂高前会長 進行のもとに 一同
8. お誕生日祝い 一同
9. ニコニコ献金 ドライバー
10. その他連絡・報告 各担当
11. 閉会点鐘 松浦 和子ネット会長

### ○ 9月 第2例会

日時: 2002年9月25日(水) 18:30~20:30  
 場所: 大阪YMCA土佐堀館9F

\*9月例会当番 第3班 (藤原、堀井、黒田、田中、石津)

\*9月お誕生日 Happy Birthday!!  
 新保君 21日、藤原君 14日

## ☺☺☺ Attention Please ☺☺☺

1. 9月 第1例会はメネットが主体になって運営します。「アメラジアン子どもキャンプを振り返って」は、4日間におたるキャンプのビデオを見ながら、皆で振り返ります。
2. 10月6日(日)13:00~14:45 中西部会、15:15~17:15 チャリティーコンサート(中西部ネット会の後援)が、大阪YMCAで開催されます。ふるってご参加ください。申込は9月20日までに山田書記へお願いします。

## 【 クラブ統計 Statistics 】

2002年8月		種別	第1例会	第2例会	BFポイント	ニコニコ献金
在籍会員	25名	メン	12名	7名	8月: 切手 190 gr	8月: 14,600円
うち広義会員	1名	メネット	3名	名	現金 2,000円	(02.7月以降の)
例会出席	15名	ビジター	3名	名	(02.7月以降の)	累計: 57,100円
うちマークアップ	3名	ゲスト	名	名	累計: 切手 540 gr	(除く、クリスマス献金、
出席率	62.5%	合計	18名	7名	現金 5,500円	オークション、記念献金)

今月も山上の垂訓の一部です。色々の場所に蒔かれた種の中で、良い土地に蒔かれたものはすくすくと成長するが、不適當な所に蒔かれたものは成長しないと書かれています。

先月 CS 活動の一つとして実施されたアメラジアン・プロジェクトは中村直前会長を中心とした多くの方々の熱意と努力、並びに関係諸団体の協力によって大成功裡に終わりました。

私たちは今回のプロジェクトに参加した子どもたちの心に、ワイズの愛の種を蒔きました。その種が良い地(子どもたちの純真な心)に蒔かれて、将来世界をつなぐ人類愛の大きい輪に育ってゆくこと、またプロジェクトを推進した人々すべてに、人種、国境を越えた友情が芽生えてゆくことを祈ってやみません。

( 聖句選、コメント：黒田徹之 )

≡≡≡ 8月 第1例会 ≡≡≡

【 Report of the August Club Meeting】

8月25日(日) 13:20~14:10・六甲研修センター  
ブリテン：松浦 孝次

● 8月例会は、4日間にわたる海と山での「アメラジアン子どもキャンプ」(第3面参照)最終日を六甲研修センターで終えたあと、引続いて同センターのグリーンチャペルで開催。錦織一郎・大阪YMCA総主事、吉田晴津子・中西部Yサ事業主査、おなじみの坂本哲朗メンがゲストとして参加された。

● 栗山佳三メンの司会のもとに、畠中彬メンの聖句朗読に続き、「アメラジアンキャンプ」を振り返った。

沖縄と韓国のアメラジアンの子どもたちと、奈良の在日外国人の子どもたちが、若いリーダーたちに支えられながら4日間交流できたことは、素晴らしい。とくに3日目の夜代表の子どもたちが、自らの生い立ちや今の境遇について、幼いながらしっかりと語る姿には、感動を受けるとともに、涙を禁じえなかった。共生の大切さを学んだ。よいプログラムであった。——というのが皆さんの感想であった。鈴木謙介メンは「孫のように思う。いつまた会えるのか?抱いてひきとめたい気持ちがあった。この子たちがこれからどういう人生を歩むのだろうか。」と述べた。

●アメラジアンキャンプが成功裡に終わったことを感謝し、子どもたちが無事帰宅することを祈って、黙祷の後、閉会し、山を下りた。

≡≡≡ 8月 第2例会 ≡≡≡

【 Report of the August Officers' Club Meeting】

8月28日(水) 18:30~20:20 書記：山田 孝彦

●アメラジアン子どもキャンプについて、プログラムの振り返り、参加組織との交流、会計報告案、リーダーの活躍等を討議した。会計報告は例会できっちりと行う。 〆

On August 22nd, 2002, we left a memorable mark on our club's history.

The Amer-Asian Children's Camp was held at the Osaka Pref. Ocean Marine Center under the joint sponsorship of the Osaka YMCA and our club.

The aim of this Camp is, firstly, to foster responsibility, cooperation and a spirit of mutual assistance among children.

Furthermore, the goal is that children will realize, through sharing their individual cultural experiences, that they are members of a global, borderless community of world youth. The ultimate aim of this Camp is, however, to plant in this country the seeds of a multi-cultural society where people with different ethnic background could live with local people without much discrimination or prejudice.

A total of 25 Amer-Asian children from Korea and Okinawa participated in this Camp, together with another 10 Chinese and Korean children living around the Nara area.

At the first night in Japan, children enjoyed BBQ dinner and games under the guidance of young volunteers from various NGO groups.

On the second day, August 23, children joined various kinds of marine programs such as boating, canoeing and sail boating at the Ocean Center. The cutter boat rowing race was the highlight of the day.

The third day, August 24, was the pleasant occasion for the children in Kobe.

They enjoyed strolling, shopping and lunch in this fashionable port city before going to the next meeting place, the Mt. Rokko Training Center of the Osaka YMCA.

It was the most impressive time for every participant when children from each three group spoke about their bitter experiences in the past. A feeling of sympathy spread over the children so strongly that most of them talked about many subjects of their common interest until late at night.

On the last day, August 25, the cultural exchange gathering was held at the Center where those Korean, Okinawa and Nara group performed their cultural programs. The Asahi Shimbun and other newspapers covered the event and we are convinced that children have learnt that they are not alone in this world. The Camp will be long remembered throughout their life.

〆● 9月第1例会は、メネットが主体になって運営してもらうこととし、プログラムは第1面記載のとおり。なお、子どもキャンプで活躍してくれたYMCAリーダーを例会に招き、一諸に振り返りを行う。

● 10月例会は、自然環境問題をテーマとし、日本熊森協会・企画推進部長の瀬戸悠子氏のお話を聴く。11月例会は、YMCAの戦略とミャンマー・プロジェクトをテーマとする。

● 土佐堀カーニバル(11月4日)には、当クラブとして、バザーを担当してはどうか、また献品、受付や支援金で、協力する。

● チャリティラン(11月17日)の実行委員は三浦メン。畠中メンに当クラブ内のマネージメントをお願いする。

シドニーの 65th 国際大会で会い、別れた PIP のガンケルマン夫妻が E メールを送ってきた。かの同時多発テロからもう 1 年が間近く迫った。あのテロのことを、A DAY TO REMEMBER—TIME TO FAST の名をつけ、9 月 11 日に因んで US AREA のワイズは、クラブごとまたは各家庭ごとに 9ドル 11 セトを拠出して、集まった金額をテロの被害者や遺族のために有効に用いるという Idea を知らせてくれた。

米国のあのテロのことは米国だけの問題でないことは当然。日本では、8 月 15 日という A DAY TO REMEMBER がさしずめ相当する。またヒロシマーナガサキも該当する。同じように 9ドル 11 セトというわけにはいかぬ。けれども TIME TO FAST に適合する日々はいくつもある。ワイズの行っている“FAST”は考えるともっと使い道がありそうですね。

“ON FAST”から“TO FAST”に言葉を変えれば、

世界 YMCA 大会に参加して= メキシコ大会の経験

谷川 寛

○ 7 月 14 日から 20 日まで、メキシコシティの郊外で、4 年に一度の世界 YMCA 同盟主催の大会がありました。現地は日中の日ざしはきついですが、湿度が低く、しのぎ易い気候です。今回は 800 名近い参加者がありました。青年代表から私たちのような老齢の役員まで、全世界から YMCA を愛する人々が集まりました。日本からは 24 名の参加者がありました。

○ 会期中には、Keynote Speaker によるスピーチ、多くの分科会、次期役員選挙、半日の観光旅行、時事問題に関する決議、カルチャーナイトなどなど、盛り沢山です。各国の YMCA が取り組んでいる問題をブースで展示する場も設けてあり、お互いに問題をシェアすることもこの集まりの大きな目的の一つです。

○ 今や、世界はグローバル化が進み一体化が進んでいますが、一方で多極化が進んでいます。YMCA 運動は、全世界で共通の使命をもって活動していますが、この多極化の進んでいる世界で、どのようにして一体感を図るのか、が大きなテーマです。

例えば、分科会で取り上げられたテーマは、HIV/AIDS の広がり、女性の地位向上、世界経済での不公平などの問題です。いずれも、YMCA という枠組みで解決が難しい大きな問題を含みますが、これも全世界で YMCA に連なる人々、とくに若い人々に問題意識を持ってもらい、みんなでシェアし、解決策を模索するのが、大きな目的です。今回のテーマは、それによって、「YMCA は、世界をどのように変えることができるか？」を問うものでした。

○ YMCA 大会では、YMCA もその時の世界で起こっている出来事に関心を示し、YMCA の立場に関する決議を出します。今回の最大テーマは、今も続行しているパレスチナ/イスラエル紛争です。アジアは、離れているため関心の度合いもややうすれますが、決議声明の内容に関しては意見が分かれ、パレスチナ寄りのヨーロッパと、イスラエル寄りのアメリカで、声明の内容に関して意見の相違がみられました。

♪

♪ ○ 昼間は厳しい討論も、夜はメキシカンハットを被ったバンドにあわせてみんなが踊り、メキシカン・ダンスを見て語り食事をする楽しい一時でした。時間を忘れてつい寝不足になります。しかし、YMCA に連なる人々ならではの一体感を体験する素晴らしい機会でした。

\*\*\*

20 周年記念例会(7 月 17 日)に出席されたチャーター時(初代)会長の山中秀男様に、クラブ創設時の模様についてご寄稿をお願いしました。

センテニアルクラブ 20 周年を祝して

山中 秀男 (現東京クラブ会員)

7 月 17 日のセンテニアルクラブ 20 周年祝会例会にお招きを頂戴し、メネットと共に出席し、当時のチャーターメンバーとも多数お会いでき、設立時の親クラブ・大阪クラブ会長であった遊上義一さん、設立時の書記で元国際会長の肩書をかなぐり捨てて文字通り新クラブの礎になられた鈴木謙介さんと並ばせて頂き感無量のものがありました。

思い出深いのは名前の論議です。カナダ YMCA 100 周年に因んで設立された赤毛のアン島の島ープリンスエドワード・シャロット市のカナダ・センテニアルクラブのエピソードが、鈴木書記候補から披露され、大阪 YMCA 100 周年との共通項によって、甲論乙駁なかなか決まらなかった問題に終止符が打たれたものです。

設立総会は中央電気倶楽部。進行はスポンサークラブの代表格で、岩越重雄さんが随所にユーモアとウイットを大声で入れられ、新生クラブの門出を盛り上げて下さいました。

会長挨拶のキーワードは Onward Centennial と英語にしました。ニューヨークにいた時通っていたバプテスト教会で、リクエストが最も多くよく歌った賛美歌が

Onward Christian Soldier marching as to war with the cross of Jesus going on before—onward, then faithful, join our happy throng, blend with ours your voices—

でした。センテニアル発足に当たっての高揚した気分合い、歌詞も今後を示唆するものでした。

設立総会直後、韓国ソウルで開催された第 55 回 Ys 国際大会で、鈴木謙介さんが、Ys 最高の栄誉である Harry M. Ballantyne Award を日本人で二人目、奈良伝さんに次ぐ受賞があり、チャーターナイト 9 月 25 日に向けてのこの上もない祝福とドライブになりました。

チャーターナイトは、ロイヤル NCB 会館で、谷川 寛さんの司会。国際会議を幾つもこなした経験を生かし手際よく進み、丁度よいタイミングで、ようやく届いたプリンスエドワード島のセンテニアルクラブ会長・ドナルド ウォッサムさんの祝辞が、英文と寛さんの訳で披露されました。赤毛のアン同様に、Cheer up(奮いたたせ)、Bear up(困難にも挫けない)内容のものでした。

20 周年おめでとうございます。次の 20 年を目指して更に発展されんことをお祈りします。

## アメリカン子どもキャンプ 特集 (2002.8.22~8.25)

**参加者**：沖縄 (アメリカンスクール・イン・オキナワ)  
韓国 (アメリカン・クリスチャンアカデミー)  
奈良 (ならファミリー&フレンド—在日外国人の子  
どもたち) 総計子どもたち35人および付添12人

**期間**：2002.8.22~8.25 3泊4日

**場所**：大阪府立青少年海洋センター(大阪府泉南郡岬町)  
YMCA六甲研修センター(神戸市)

**主催**：大阪センテニアルクラブ/大阪YMCA/上記参加  
組織

**後援**：関西テレビ青少年育成事業団/大阪府キャンプ協会  
**ボランティア・リーダー**：YMCA国際専門学校学生(O  
B含む)、関西テレビ青少年育成事業団リーダー、朝日  
キャンプリーダー(OB) 計14人および運営スタッフ

**費用**：概算 約350万円

**拠出者(助成)**：俱進会200万円、センテニアルクラブ97  
万円、ワイズ西日本区30万円、関西テレビ青少年育  
成事業団10万円、さよならパーティ会費15万円

**プログラム**：

- ①8/22 PM 3グループが青少年海洋センターに到  
着。夕刻から歓迎・バーベキューパーティと交歓会
- ②8/23 海洋プログラム(カヌー、釣り、カッター、い  
かだづくり)を楽しむ—海洋センター泊
- ③8/24 神戸市内見学、夕刻六甲研修センター着、夜交流  
ミーティング(代表5人が自分の生い立ちや体験を語る)  
—同研修センター泊
- ④8/25 文化交流(3グループがそれぞれ出しもの)、さ  
よならパーティ、記念撮影、PM 関空に向け出発

**マスコミ取材**：朝日新聞、共同通信、沖縄タイムス



(最終日みんなで記念撮影—Y六甲研修センターで)

日韓交流キャンプ—沖縄・韓国・奈良の子ら35人が交流  
国や言葉の壁を越え 友情を束らせる  
直前会長 中村 茂高

クラブの20周年事業でもある、「アメリカン子どもサ  
ミット」が開催され、事故・けが・病気もなく無事に終了  
しました。台風が気になる時期でしたが、天候には非常に  
恵まれ、子どもたちには満足したプログラムができたと思  
います。

参加したのは、沖縄・宜野湾市にある「アメリカン

♫スクール・イン・オキナワ」の11~17歳の16人と、

韓国北部の東豆川市にある「アメリカン・クリスチャン  
アカデミー」の10人、さらに奈良の多国籍の子どもたち  
9人も加わり、総勢35人。特に24日夜、六甲で行われ  
た交流会では、国籍や言語、外見の違いなどから受けたさ  
まざまな苦しい体験が語られ、共感の涙を誘いました。

また、このキャンプは、「もうひとつの日韓交流」とも  
いうべく、大阪YMCAの韓国留学生と関西テレビのリー  
ダーたち14人の協力は、キャンプの成功にとって大変大  
きなものでありました。本クラブや関係者の皆様のご協  
力にも心から感謝申し上げます。

夢、分かち合う友だちでできた

8月22日、午後3時半ごろから関西空港に続々と到着  
した韓国と沖縄のアメリカンの子どもたちを出迎えたの  
は、奈良の多国籍の子どもたち。これから始まるキャンプ  
への期待と緊張感に胸をはずませながらバスに乗り込み、  
大阪府立青少年海洋センターへ。センターでは、スタッフ  
による歓迎パーティーが用意され、子どもたちはバーベ  
キューの肉やヤキソバをほおぼりながら、自己紹介をし合  
ったりダンスを踊ったり、会場は英語、日本語、韓国語が飛  
び交う、さながら国際交流の場となりました。

韓国と沖縄のスクールは、昨年春から交流を始め、11  
月には韓国の2人が沖縄でホームステイをしています。  
その一人のミシェル・メレンデスさん(14)は、「昔から  
同じ国の人同士だったみたい。国境や民族の壁は感じませ  
ん」と話してくれました。その夜、子どもたちは12張の  
テントに分宿。

翌23日の午前中、一人ひとりの希望でカヌーやクラフ  
ト、釣りの3つのインタレストプログラムに挑戦。午後か  
らは、全員でカッターレースをしたり、タイヤのチューブ  
でイカダづくりに取り組んだり、一日活動的なプログラ  
ムに子どもたちの顔は輝いていました。

24日朝は、全員がバスに乗り込み、神戸市内観光に。  
午前11時半、神戸市役所前に着いた子どもたちは6班に  
分かれ、それぞれが午後4時まで南京町の中華街やハー  
バーランドへ行って、食事やショッピングを楽しみました。  
その後は、YMCA六甲研修センターへ。海から一転、車  
窓から移り変わる山の景色に興味をもったようでした。

今回のキャンプの目玉、24日夜の交流会では、子ども  
たちが自らの体験を語ってくれました。

初日、パーティーの時に自己紹介がうまくできず、腹  
痛を起こした韓国のパク・タヨンさん(12)は、幼い時、  
父親が去った後、母親も養父母に彼女を預けたまま行方知  
れずになってしまいました。だから母親がいるかも知れな  
い日本に来たかったと話してくれました。

中国出身で奈良の公立学校に通うリ・ヤン君(15)は  
「いじめられたから、偏見をなくす立場になれる」と頼も  
しい発言をしてくれました。

「違いを認め合い、自分の思ったとおりに生きることが  
できたら」と語る沖縄のアリサ・ガリソンさん(14)は  
「同じ存在の友だちと夢を分かち合えたら」とネットワー  
クの大切さを訴えました。

最終日は、文化交流会、さよならパーティーを終え、  
再会を約束して子どもたちは帰路につきました。



(初日各グループごとに自己紹介をする—海洋センター)



(3日日夜の交流会—PM10時まで真剣に取り組んだ)

○ 「アメラジアン子どもキャンプ」盛況裡に終了 ○

地域奉仕事業委員長・藤原正巳

わがクラブの当年度最大の CS テーマである「アメラジアン子供キャンプ」が8月25日無事終了しました。

昨年10月の合宿で「クラブの新しい社会貢献には何かよいか」と深夜まで真剣に討議し、全員の総意を経て決定したこのプロジェクトの実施は、クラブ設立20周年の記念事業との位置付けとも相俟って、センテナル（100周年）の組織力と実行力が試される機会でもありました。

しかし、このキャンプについては、プロジェクトの立案者であり、実行委員長でもある中村茂高・直前会長の弛まない熱意と抜群の組織力・集金力、海・山夫々の会場の運営を担当頂いた畠中彬メンと浜野昌保メンの卓越したリーダーシップ、それに YMCA リーダー、YMCA 専門学校留学生、朝日新聞厚生文化事業団、および関西テレビ青少年育成事業団の皆さんなど、若い力の結集により当初の予想をはるかに上回る大きな成果を収め、朝日新聞などマスコミにも大きく報道されました。

準備の過程では、必要資金の調達から入国ビザの取得に至るまで、大小様々な問題がありましたが、大阪 YMCA の力強いご支援と、会員の皆さんのご協力により見事成功を収めたことは、わがクラブの CS 事業の歴史に輝かしい一頁を加えたものと考えております。

感動と共感の4日間はあっという間に過ぎ去りました

が、わがクラブでは沖縄アメラジアンスクールに対して来年度以降も毎年10万円の支援を10年間継続する予定です。今回の開催がアメラジアン問題に光をあて、差別のない多文化社会の形成に少しでも役立つ機会になればと願っております。



(3日目すっかりうちとけて夕食する子どもたち—六甲で)



(4日目の文化交流で踊りを披露する沖縄の子どもたち)

第65回ワイズメンズクラブ国際大会

8月1日～4日オーストラリア・シドニーで開催され、鈴木謙介、山田孝彦、栗山佳三、三浦直之メンが出席した。その模様は、9月例会で鈴木メンから紹介します。



(シドニーでの国際大会に参加したわがクラブメン)



## ゲストからのメッセージ

○今回アメラジアン子供サミットに参加させて頂き有難うございました。お手伝いのつもりでしたがかえってお世話になってしまいました。子供一人一人が良き思い出になりましたことでしょう。私も胸をあつく致しました。  
(大阪セントラルクラブ・吉田 晴津子)

## 会員からのメッセージ

- 感動的なアメラジアン子供サミットも無事に終えて、木陰での例会もなかなか良いものですね。(石津 雅人)
- 今日、参加できて大変感動しました。次回からは最初から参加したいです。(坂本 千春)
- 「9:30 に六甲YMCAに来るように」とのことで、ケーブルから歩いて 9:25 に着きました。ちょっとの間でしたがアメラジアンキャンプで過ごせました。ありがとうございました。(新保 正秋)
- フェアウエルパーティでは謙介さんが子供達の大人気でした。皆とてもいい顔をしていて、きっと4日間のキャンプを楽しんでくれた事と思います。子供達が元気で活躍出来る事を祈ります。キャンプを支えて下さった皆様有難うございました。(隅田 恵子)



( 初日、海洋センターに馳せ参じたクラブメンバー )

- アメラジアンサミットも無事に終わり、子供たちはお互いに友達になり「また会おうね」と言って帰って行ったのに感動しました。本当にすばらしいフレンドシップキャンプでした。(松浦 和子)
- アメラジアンキャンプに裏方として参加し、子どもたちに接して、新しい貴重な体験をさせてもらった。ゲームズ校長が言ったように「今まかれた種が育ち、花を咲かせ、実を結ぶ」ことを心から願う。(松浦 孝次)
- 8/25(日)13:00～ 於：六甲山グリーンチャペル  
日韓子供サミットは非常に意義深いもので感動致しました。(三浦 直之)
- アメラジアンプログラムが達成感に満たされて終わることが出来、感謝です。何よりも子供達が喜んでくれたこと、ボランティアの若い人たちの活躍に支えられたことを、これからのセンテニアルのエネルギー源にして、さらに前進したいものです。(山田 孝彦)
- 「アメラジアン子供サミット」最終日に参加して、若さとパワーをもらいました。(湯浅 充章)

- ◇現金提供者：栗山、山田君  
◇切手提供者：山田、隅田、鈴木、栗山君  
今月の殊勲賞：山田君 (100g)

## 大阪 YMCA ニュース

連絡職員・浜野 昌保

アメラジアン子どもサミットをはじめ、夏の特別プログラムが無事終わりましたことに感謝します。秋にも大阪YMCA創立120周年記念講演会等様々な行事が予定されています。ご参加とご支援をよろしくお願いします。

### ★大阪YMCA創立120周年記念講演会

会場はいずれも大阪YMCA会館

○10月12日(土) 午後2時～5時

「こころの世紀への道標」村上陽一郎氏・柏木哲夫氏  
講演と対話 (国際基督教大教授) (大阪大教授)

○10月26日(土) 午後2時～3時30分

「今を生きる、忘れ物はないでしょうか」  
渡辺和子氏講演会 (ノートルダム清心学園理事長)

### ★大阪YMCA福祉公開講座

シンポジウム「わたし流！イキイキ生活」

日時：9月7日(土) 午後3時～午後5時

場所：YMCAサンホーム

申込み：YMCAサンホーム ☎電話06(6787)3733

### ★大阪YMCA早天祈祷会

日時：9月20日(金) 午前7時30分～8時30分

場所：大阪YMCA会館 10階チャペル

証し：八木恵子氏 (大阪YMCA協力会員)

問合せ：大阪YMCA ☎06(6441)0894

### ★第4回環境教育セミナー

「ボランティア考 ～ 私が変わる・社会が変わる」

日時：9月20日(金) 19:00～20:30

場所：大阪YMCA会館

講師：ボランティアコーディネーター 岩坂 二規氏

問合せ：土佐堀YMCA ☎06(6441)0895

## 「関西のちの電話」チャリティーコンサート

8月2日(金)シンフォニーホールで開催。クラブメンバーがチケット購入にご協力いただいたことを感謝します。当日会場で奉仕されたのは、藤原、福永、谷川俊、湯浅、石津メンと谷川迪子メネットの6人。

テーマは「有名アリアで綴るオペラの楽しさ」。プログラムは、オペラ「カルメン」「フィガロの結婚」「椿姫」などから代表的なアリアの演奏。出演者は、田中 勉、田中友輝子、坂本朋子、日下部吉彦(司会)の各氏ほか。

## 《 編集後記 》

9月号ブリテンは、豊富な内容となりました。アメラジアンプログラムのほか、初代会長の山中秀男様からクラブ創設時について、また世界YMCA同盟大会に参加した谷川寛メンからその模様を、ご寄稿いただきました。9月号から鈴木謙介メンの「所感」を継続して載せる予定です。  
(松浦 孝次)